

タケノコ掘り

桑高同窓会長 西羽 晃

5月の連休初日の5月3日は憲法記念の日だったが、昨年も今年も憲法には関係なく、タケノコ掘りに出かけた。桑高時代からの親友である水谷勇夫君所有の竹山である。太夫にある山で、昨年は不作で余り採れなかったが、今年は豊作だった。このタケノコ掘りの行事は名古屋を中心として活動している「NPO法人 フレンド・アジア・ロード」(略称FAR)の有志が4年前から行っている。FARは水谷君も私も参加している団体である。タケノコ掘りに私は諸事情から昨年からの参加で初体験だった。今年の参加者12人は収穫を済ませて、水谷君の自宅でタケノコ料理で収穫祭だ。これは予め水谷君の娘さんご夫妻(夫君は桑名北高校の校長先生)が用意して下さっている。

水谷君の奥さんは早くに亡くなり、娘さんが2人いたが、いずれも他家へ結婚している。一人暮らしのところへ押しかけるので、料理も掃除、後片付けなど毎年迷惑をかけているが、彼も飲んで喋ることが大好きなので、遠慮なくお邪魔している。

水谷君の自宅は桑名本郷である。桑名駅に至近の距離でありながら戦災を免れて、昔ながらの古い集落で狭い道路に家が固まっている。8畳4間の典型的な和風建物である。この家の座敷で酒盛りもするのだが、今から60年ほど前の私が入りびたりだった頃のままのたたずまいである。

昔の和風建物は風通しが良くて、夏向きに出来ている。大学生のころは夏休みに帰省すると、私は朝から彼の家に出かけて、高校野球のテレビを見て過ごす。彼は桑高の硬式野球部の主将として活躍したので、高校野球には特に思い

入れが深い。昼になると昼食をよばれ、昼寝をして、またテレビを見て、夕方になると風呂に入り、夕食をしてから自分の家に帰るような生活をしていた。お母様には大変なご迷惑をかけたことだった。お父様は桑名市役所に勤めておられ、帰ってこられると、いつも歓迎して頂いて、一緒にビールを飲んだりした。懐かしい部屋で、往時を思い出す。

桑名のタケノコは今や桑名のブランドになっている。時期になると、あちこちから一度に貰うことが多い。桑高同級生の小川通夫君は桑部に住んでいるが、今年彼から貰ったタケノコは最高に美味しかった。深谷の人からも毎年貰っている。私の義姉（亡兄の妻）は西宮に住んでいるが、ある時に送ったら、京都のタケノコよりも美味しいと大変に気に入ってもらえた。それから毎年お金を送ってくるので、深谷の人に頼んで送ってもらっている。

桑名のタケノコの歴史は古いことではない。盛んになったのは、戦後らしい。水谷君の竹山も彼が生まれた頃はスギとヒノキの山だったそうだ。タケは繁殖力が強くて、またたく間に侵食してくるようだ。だから良いタケノコを採るには、それなりに手入れが普段から必要だそうである。

10年以上前だったか、桑名の高塚山古墳を史跡指定の話があった。高塚山古墳は全長56mほど、四日市から北の三重県では最大の古墳で、桑名市街地の最高地点にある。ここは手入れの行き届いた竹林であり、タケノコ畑なので、他人が勝手に入って踏み荒らされると困るということで、史跡指定の話は立ち消えになったことを思い出した。ちなみにこの古墳の一部だけを平成16年に試掘したところ、朝顔形埴輪、盾形埴輪、円筒埴輪などが出土し、美濃赤坂の豪族との関連があると推測されている。